

別府さおり（べっぶ さおり：応用心理学部 福祉心理学科）

主な担当授業：心理教育指導法（知的障害）

専門：障害児の心理と教育、心理検査

障害のある子どもの「プランニング」

●「プランニング」とは？

私たちは、日常生活において、「これから何をするか、何をしたいか」をイメージします。そしてそれを目標とし、どうしたらその目標に到達できるか、現状を把握し、方法を考え、結果を予想します。さらに、実際の行動に移し、その結果を得ます。うまくいかなかった場合には特に、目標や方法、予想した結果を検討し直します。

私たちは、意識する、しないに関わらず、日常的にこれらのことを繰り返しているのです。

この一連のプロセスのことを、神経心理学的研究に基づいた概念で「プランニング」といいます。

●研究テーマ「障害のある子どものプランニング」

障害のある子どもたちの中には、この「プランニング」に困難を示すケースがあります。

では、プロセスのどこに困難があるのか？その困難は、どのような支援をすれば軽減できるのか？これらのことを、ゲームのような実験的課題を用いて研究しました。

●研究結果を支援につなげる

その結果、十分に方法を検討し結果を予想することは苦手だけれど、後から修正することは得意で、最終的に目標を達成できる子どもたちがいることがわかりました。

そこで、はじめに一緒に計画を立てたり、得意な修正を意識的に行うように促したりすることで、「プランニング」がうまくいくことを提案しました。

●その先へ！

「プランニング」には、意欲や意志、「あれがしたい」「こうなりたい」といったことが関わっています。

私の研究で言えば、子どもたちは「課題（ゲーム）をクリアしたい！」と思ってくれたようです。でも、日常の中では、意欲を失いがちな子どもたちもいます。

“子どもたちが、意欲や意志をもつためには？”このことも含めた「プランニング」の研究に、今後取り組んでいけたらと思っています。

